

平成22年度 指定管理者施設管理評価シート

部 教育委員会事務局 課 児童保育課

施設名称		[40] 東京都台東区立今戸児童館				
指定管理者の名称		社会福祉法人台東区社会福祉事業団		指定期間	H22. 4. 1 ~ H27. 3. 31	
1. 指定管理者の概要						
(1) 業務内容	台東区の児童及び高齢者福祉の充実による区民福祉の向上を図るため、児童館や高齢者施設の管理・運営を行う。					
(2) 類似施設の管理実績	児童館7館、13こどもクラブ					
(3) 経営状況	(21年度決算ベース) [社会福祉事業会計] 収入2,557,487,339円、支出2,553,884,652円、収支差額3,602,687					
2. 施設の概要						
(1) 所在地	台東区今戸1-3-6					
(2) 設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。					
(3) 利用者	区内在住の幼児から中学校終了までを主たる対象とする。					
(4) 開館日・時間	月曜日から土曜日：午前9：30～午後6：00、日曜日(第三日曜日を除く)は一部開放 午前9：30～午後6：00、休館日 年末年始、祝祭日(5月5日は開放)					
(5) 規模	RC3階建て 図書室・音楽室・遊戯室・図工室・第2遊戯室等					
(6) 人員体制	常勤職員3名、短時間職員5名					
3. 事業(サービス提供)の概要						
(1) 委託事業	①児童の福祉を目的とする事業、②児童館の利用をとおして児童の情操の育成に資する事業、③健全な遊びをとおして児童の集団的及び個別指導を行なうこと、④その他、児童館の目的達成のために必要な事業					
(2) 自主事業	自主事業は行っていない。					
4. 予算決算の推移						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
予算	委託料	41,969,000	42,504,000	43,428,000	43,997,000	42,627,000
	料金収入等	0	0	0	0	0
	管理経費	41,969,000	42,504,000	43,428,000	43,997,000	42,627,000
決算	委託料	36,788,949	35,032,543	39,074,398	39,733,360	40,773,160
	料金収入等	0	0	0	0	0
	管理経費	36,788,949	35,032,543	39,074,398	39,733,360	40,773,160
	収支	0	0	0	0	0
5. 施設の稼働状況等(活動指標)						
指標名称		単位	18年度	19年度	20年度	21年度
開館日数		日		335	334	333
6. 成果指標						
指標名称		単位	目標値(23年度)	19年度	20年度	21年度
利用者数		人	27,000	27,454	27,094	26,733

7. 前年度からの取組

子ども達のボランティア体験活動を続けるなど子ども達の健全育成に努力している。
また、中高生タイムの実施施設として、中高生の自主活動を支援しており、中高生から小学生への伝承など異年齢の交流を大切にしている。

8. 評価項目 3：協定等の水準を上回っている。 0：協定等の水準を下回っている。
2：協定等の水準どおりである。 -：評価対象外項目。
1：おおむね協定等の水準だが課題がある。

評価の観点	評価項目			
(1) 事業の運営 平均 [2.0]	(a) 施設の目的達成	[2]	(f) 開館時間等の遵守	[2]
	(b) サービス水準	[2]	(g) 自主事業の成果	[-]
	(c) 職員配置	[2]	(h) 個人情報保護	[2]
	(d) 職員研修	[2]	(i) 緊急時対応マニュアル	[2]
	(e) 案内・接遇	[2]	(j) 警備・防犯体制	[2]
(2) 施設の維持管理 平均 [2.0]	(a) 建物保守・設備機器点検	[2]	(e) 危険箇所等の確認	[2]
	(b) 備品の管理	[2]	(f) 管理記録の作成・保存	[2]
	(c) 清掃・衛生管理	[2]	(g) 業務委託の事前承認	[2]
	(d) 施設の修繕	[2]	(h) 省エネ・省資源・環境配慮	[2]
(3) 利用者の満足度 平均 [2.0]	(a) 利用者・第三者機関の評価	[2]	(d) 利用しやすい環境整備	[2]
	(b) 苦情・要望への対応と報告	[2]	(e) 関係団体・地域との関わり	[2]
	(c) 利用者数の目標達成	[2]		
(4) 歳入歳出 平均 [2.0]	(a) 適正な予算執行	[2]	(c) 収支計画の達成	[2]
	(b) 経費削減のための取組み	[2]	(d) 利用料等の徴収・管理	[2]

9. 評価

S（水準以上）： 協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。
A（適正）： 協定等の水準を満たす管理が行われている。
B（一部課題あり）： 協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。
C（課題あり）： 協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。
D（水準未滿）： 協定等の水準を満たしていない。

評価の視点	評価	説明
(1) 事業の運営	A	中高生タイムを始めとして、様々な年齢層向けの事業、異年齢の交流やボランティア活動の取り組みなどを実施し、児童健全育成の拠点となっている。また個人情報保護については、組織として指導や内部検討を行い、徹底している。
(2) 施設の維持管理	A	日常の清掃や安全管理に努め、修繕を自主的に実施するなど、業務水準に基づき、適切な管理が行われている。
(3) 利用者の満足度	A	利用者の意見や要望を汲み取った事業が行なわれている。また低学年から中高生まで、異年齢の触れ合いが有り、それぞれの世代の成長に良い影響を与え合っていることも満足度を高める一因となっている。
(4) 歳入歳出	A	事業団の経営改革に関するプロジェクトチームに参画し、指定管理者として、職員全体で経費の削減、効率の向上に努力している。

10. 総合評価 良好 妥当 要努力 要改善 不適

妥当	利用者の意見や要望を積極的に取り入れ、中高生タイムやボランティア体験活動など、幼児から中高生までの子ども達の独創性を伸ばす事業展開が行われており、児童健全育成の拠点として機能している。
-----------	--

11. 評価結果への対応

音楽室を活用して音楽活動を楽しみながらの中高生のエネルギー発散と異年齢の伝承が効果的に行なわれている。中高生の思春期の問題への対応も含めて、日曜日の見守り等地域と協力していく。